

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。

【生徒に育みたい力】

- ・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力
- ・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力
- ・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力
- ・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力

2 中期的目標

- 1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成
- (1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。
- ア 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開する。
- ※ 学校教育自己診断の「授業評価」に関する項目において、令和7年度まで70%以上の肯定率を維持する。
- (「授業のわかりやすさ」R2:67.3%, R3:74.6%, R4:70.3%)
- イ ・1人1台端末を活用し、個別最適化された学びを生徒一人ひとりに行う。
- ・ICT機器及びWi-Fi環境が整備された全HR教室で、双方向型の授業を展開する。
- ・教育活動全般を通じて、生徒のICT活用能力を高める取組みを推進する。各講座でのICT機器等の活用を促進し、令和7年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。(R2:73.1%, R3:85.7%, R4:88.2%) 3月実施予定
- ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルでの英語4技能習得をめざす。(スピーキング指導の充実)
- ※ 第1学年及び第2学年において外部試験等を利用した4技能習得及びその状況を客観的に把握 実力判定テストにおいてもリスニングテストなどを導入 英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇。(当該科目授業アンケートR2:3.1, R3:3.1, R4:3.0)
- エ 津田高版の探究活動(探究の時間)を確立し充実する。
- (2) 課外学習など自学自習を促進し、校内外での学習習慣の確立をめざす。
- ア 放課後学習や週末課題を実施し、知識・技能の一層の定着を図る。
- ※ 2年生での自主学習の平均時間を、令和7年度までに1時間以上とする。(R2:0.42H, R3:0.40H, R4:0.48H)
- イ 各種検定試験の受験を促進し、資格取得による学習への動機づけを図る。
- ※ 漢字・数学・情報・英語の資格検定の校内実施と受験生徒の増加に努める。
- (3) キャリア教育の充実と希望の進路実現のための支援を充実する。
- ア 生徒が目標を持ち進学や就職に取り組めるよう、将来に向けてのキャリア展望を促進する。
- ※ 学校教育自己診断の「進路指導」に関する項目において、令和7年度まで85%以上の肯定率を維持する。(R2:83.1%, R3:84.4%, R4:86.5%)
- イ 最新の情報収集に基づく進路種別の生徒・保護者向け説明会の充実を図る。
- ※ 各学年で生徒・保護者対象進路説明会を実施する。
- ウ 進路指導セッションと担任団の連携を強化し、サポート体制を確立する。
- 2 力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成
- (1) 生徒理解に基づく指導の促進と安全安心な学校生活を支援する体制を確立する。
- ア 生徒理解の指導により、生徒の自律性と自己肯定感の向上を図る。
- ※ 年間遅刻者数を令和7年度まで800件以下で維持する。(R2:1049件, R3:853件, R4:1020件)
- イ 悩みや不安のある生徒が安心して学校生活が送れるよう、スクールカウンセラーなどの専門家や関係機関と連携して教育相談支援体制を充実する。
- ※ 学校教育自己診断(生徒)の教育相談に関する項目の肯定率を、令和7年度まで75%以上を維持する。(R2:63.0%, R3:83.5%, R4:84.2%)
- ウ 学校のルールや授業規律の徹底を図り、規律ある安全安心な教育環境を確保する。
- ※ 学校教育自己診断(生徒)での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率を、令和7年度まで95%程度を維持する。
- (R2:94.4%, R3:97.3%, R4:95.3%)
- (2) 伝統ある学校行事(生徒会活動)や活発な部活動により主体性・協調性を育成する。
- ア 生徒主体で企画・運営する学校行事を継続して促進する。
- イ 部活動運営の主体性を育むためCM(キャプテン・マネージャー)会議の充実を図る。
- ※ 1年生の部活動入部率を令和7年度までに60%を実現する。(R2:69%, R3:53%, R4:48.5%)
- ※ 行事や部活動に対する肯定率を、令和7年度までに80%にする。(R2:77.4%, R3:75.9%, R4:76.4%)
- ウ 人権を尊重する教育を推進する。
- (3) コミュニケーション能力の向上を図り、他者を尊重する心を育成する。
- ア 「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。
- ※「挨拶をするように心がけている」の肯定率を令和7年度までに90%以上を維持する。(R2:88.2%, R3:92.3%, R4:89.2%)
- イ 国際交流活動(海外からの学校訪問受入れと希望者による短期留学派遣)を実施し、国際感覚を育成する。
- ※ 外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期海外派遣を実施する。
- 3 学校力、教員力の向上
- (1) 継続的な授業改善への取組みを促進し教育力の向上を図る。
- ア 主体的、対話的で深い学びの授業を促進する。
- イ 授業等におけるICT機器の利活用スキルの向上を図る。
- ※「主体的、対話的な授業実施に取り組んでいる」の肯定率を、令和7年度までに80%以上にすること。(R2:67.4%, R3:76%, R4:94.1%)
- (2) 津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進
- ア 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」をアピールする。
- イ 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識する。
- ウ HPなど多様な情報発信ツールを活用した広報活動を強化する。
- (3) 働き方改革の取組み

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学校生活】 ・生徒の挨拶が一日中あり、生徒「誰に対しても挨拶する」が肯定91％であった。社会におけるコミュニケーションの始まりに大切な力が身についている。 ・生徒「学校へ行くのが楽しい」は76％であり、前年度71％より改善したが、学校生活や行事で生徒が活躍することを大切にしながら一層改善に努めたい。 【学習指導】 ・生徒「授業はわかりやすい」は73％であり、前年度71％から少しの改善に留まった。3学期、全HR教室の電子黒板機能付プロジェクター及び対応黒板、カーテンを高機能なものに更新した。これらの機器や1人1台端末を上手に活用することを含めて、わかりやすい授業に取り組んでいる教職員も多いため、授業公開週間等を活用して、学校全体の授業力向上に努めたい。 【進路指導】 ・進路指導の項目の肯定について、生徒88％（前年度87％）、保護者81％（81％）となり、高いポイントを維持している。今後とも、一人ひとりが希望する進路の実現に向けて、きめ細やかな指導を続けていきたい。 【教育相談・人権】 ・教育相談・人権の項目の肯定について、生徒86％（前年度82％）、保護者78％（80％）であった。スクールカウンセラーの一層の活用を含め、生徒に寄り添う姿勢とカウンセリングマインドをもった対応で今後とも取り組んでいきたい。	第1回（6/23） ・学校が行っている活動を発信・広報していくのが大切であり、多様なツールがある。 ・コロナ禍が過ぎ、地域とのふれあい行事や異なる校種間での交流等に参加していくことを期待している。枚方津田高生の素敵な姿を見せていって欲しい。 ・コロナ禍で冷え込んだ生徒の部活動への興味・関心を再び高めて活性化して欲しいが、働き方改革にも取り組むことも重要である。 第2回（10/20） ・デジタル採点を始めたということであるが、どのような状況・特徴があるのか。 ・週末課題の提出率について低い学年があるので、頑張ってもらいたい。 ・遅刻者数を減らすための工夫として、どのようなことに取り組んでいるか。 第3回（2/16） ・令和5年度、挨拶は社会人になってからも大切であるため、生徒に挨拶習慣が定着していることは好ましい。 ・令和5年度、国際交流・海外研修の実施状況が、回数だけでなく、内容や生徒の様子の報告からすると、材料を集めて◎に変更してもいいのでは。 ・令和5年度、ICT活用について◎を増やしてもいいのではないかな。 ・令和6年度、新規項目「自分の希望した進路に満足」について、調査の際に補足説明があった方がわかりやすいと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	（1）思考力・判断力・表現力を含んだ「確かな学力」の定着 ア 主体的、対話的で深い学びを実現する授業の展開	（1） ア・「主体的な学びのある授業」のための授業改善に向けた研修などへの参加と自由に見学できる授業見学週間の実施	（1） ア・年間2回の授業見学週間ですべての教員が授業を公開する。[2回]	（1） ア・6/5～16、11/13～24の2回実施した。来年度も継続し、学校全体の授業力向上に努めたい。（○）
	イ 1人1台端末を活用し、個別最適な学びの支援をおこなう。	イ・一人ひとりの理解の状況を把握しながら、双方向的な授業をおこなう。 ・生徒が自分の理解度に応じた自学自習を進められる環境の整備をおこなう。 ・生徒の学びの過程を保護者と共有する。（全学年生徒が学習アプリを活用）	イ・自己診断「授業評価」の肯定70%以上 「授業のわかりやすさ」[70.7%] ・主体的・対話的な学びのある授業の実施率の維持[92.3%]	イ・「授業のわかりやすさ」73% 3学期に更新したICT機器は高機能で一層活用したい。（○） ・「主体的・対話的授業」86% 実施率が下がった。来年度、再度向上をめざす。（△）
	ウ ICT機器の効果的な活用	ウ・授業内外でのICT機器の活用促進。 ・ICT機器を活用した授業等の職員研修を実施する。（R2学校経営推進費事業） ・生徒の委員会であるICT委員会の講習を実施する。	ウ・授業でのICT機器の活用指導力の向上[88.2%]3月実施 ・ICT教員研修の年間2回の実施[0回] ・ICT委員会の5回以上の実施[4回]	ウ・ICT機器活用指導85.1%（△） 今年度、新機器や新手法の導入が続ки、操作の習熟に追われた。次年度は、指導力定着の年にしたい。 ・教員研修15回。新規手法・機器が導入され、頻回に実施して活用力が向上。（◎） ・生徒ICT委員会を4回実施し、機器活用時に係生徒の協力を得ながら実施。必要なレベルに到達できたため1回少なくできた。（○）
	エ 英語専門コースを中心に高いレベルでの4技能習得	エ・英語専門コース及び英語授業一般において、4技能伸長のための授業の改革を実施。 ・4技能をバランスよく指導する。特にスピーキング力の養成に努める。	エ・授業におけるスピーキングの指導割合の増加。 コミュニケーション英語の授業内でのスピーキング指導を、全英語科教員が総授業時数の半数以上をおこなう。[3/6人] ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.4以上を維持。[3.0] ・スピーキングコンテスト等複数学年で実施（年1回）	エ・英語スピーキング指導で時数の半数以上3/5人で比率増。（◎） ・専門コース対象授業満足度3.0。学力幅がある生徒が満足するよう取り組む。（△） ・スピーキングコンテスト0回。来年度は単学年でも実施したい。（△）
	オ 津田高版探究活動の確立	オ・3年間を通じた継続性のある探究活動の構築	オ・生徒アンケートによる「探究学習」の肯定率80%以上[91.9%]	オ・「探究学習」84.7%となり、発表力や課題設定力の定着、将来設計の構築など、目標は達成したが、前年度を超えなかった。（○）

府立枚方津田高等学校

1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	(2)校内外での学習習慣の確立 ア 放課後学習・週末課題の実施 イ 各種検定の受験促進 (3)キャリア教育の充実と希望の進路実現 ア 将来に向けてのキャリア展望 イ 進路情報の収集と保護者説明会の実施	(2) ア・毎日放課後10分間の基礎学習を実施し、毎週末には英語・数学・国語の課題を課し家庭学習（自主学習）を促進する。 イ・英語検定、漢字検定、数学検定等の対策指導を行い、意識を高め、受験を促進する。 (3) ア・津田高版「キャリアパスポート」の各学年のカスタマイズを充実し、生徒の進路実現に向けた取組みを促進する。 イ・多様な進路情報に対応した、生徒・保護者説明会の開催	(2) ア・週末課題等の提出率9割以上[8割] イ・年間の資格試験等の受験者数と合格者数[実施回数のみ。指標の変更] (3) ア・自己診断「進路指導」の肯定率85%以上[86.5%] イ・進路に関する説明会を1年生2回、2年生3回、3年生5回行う。 [1年3回, 2年5回, 3年8回]	(2) ア・週末課題提出率93%。授業以外の本課題も利用し家庭学習を促進。(◎) イ・漢検・数検・英検で71名受験、合格26名。上位級に挑戦すると合格率が下がるため、来年度は申込者数のみに注目したい。 (3) ア・生徒「進路指導」の肯定88%、今後とも一人ひとりが希望する進路実現に取り組みたい。(◎) イ・1年：生徒3回、2年：生徒4回＋保護者1回、3年：生徒8回＋保護者11回実施し、各自の進路を考えることに貢献できた。(◎)
2 力強く社会を生きるための豊かな人間力の育成	(1)生徒理解に基づく指導と安全安心な学校生活を支援 ア生徒の自律性と自己肯定感の向上 イ教育相談支援体制の強化 ウ規律ある安全安心な教育環境の確保 (2)学校行事や部活動による主体性、協調性の育成 ア生徒主体で企画運営する学校行事の促進 イ部活動運営における主体性の育成 ウ人権を尊重する教育の推進	(1) ア・生徒理解に基づく指導により生徒の自律的な学校生活を確立する。 イ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を実施する。 ・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。 ・生徒にとって相談しやすい環境を創造する ウ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。 ・生徒指導において対話的な指導の推進をする。 ・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。 (2) ア・生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。 イ・部活動での生徒の主体的活動を促進するためのキャプテン・マネージャー会議を月1回程度開催する。 ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。 ウ・人権文化講演会を開催する。 ・テーマ別人権課題の各学年人権HRを実施する。 ・教職員人権研修を実施する。	(1) ア・年間遅刻者数を800件未満にする。 [1020件] イ・教育相談・支援教育に関する研修を1回実施[0回] ・自己診断での「教育相談」の肯定率75%以上[84.2%] ウ・自己診断(生徒)の「学習環境」への肯定率の向上[69.1%] ・自己診断(生徒)での「規範意識」の肯定率95%以上[95.3%] (2) ア・自己診断(生徒)の学校行事及び部活動への満足度80%以上[76.4%] ・年間行事予定に掲載された主要な行事をHPやSNSを用いて、すべて情報発信する。[12/12回] イ・キャプテン・マネージャー会議の招集[25回] ・1年生の入部率を前年度より上昇させる。[48.5%] ・部活動交流に参加する中学生100名以上[73名] ウ・自己診断の「人権意識」の肯定率80%以上[85.7%]	(1) ア・遅刻者数895件である。前年度より減少したが、目標値より増加した。次年度、継続して丁寧に指導に努めたい。(△) イ・教育相談・支援教育の教員研修2回今後とも研修等により教育力の向上に努めたい。(◎) ・生徒「教育相談」85%であった。研修の成果も生かしながら、来年度も生徒に寄り添いながら取り組んでいきたい。(◎) ウ・生徒「学習環境」66%となり、目標には及ばなかった。授業中の活動が増えると静かさと反するが、バランスを取りながら継続したい。(△) ・生徒「規範意識」94%でほぼ到達した。今後とも、納得感のあるルール設定を行っていきたい。(○) (2) ア・生徒「学校行事及び部活動への満足度」76%であり、伸びなかった。部活動加入率と連動するため、来年度、加入率増に取り組みたい。(△) ・主要行事の情報発信18/18回(○) イ・キャプテン・マネージャー会議を精選して10回実施となったが、相互の情報共有や生徒の協力体制は維持できた。(△) ・1年生入部率50%で、前年度より上昇だがさらに上昇させたい。(○) ・部活動交流参加中学生は広報集約分が67名。各部活動への直接参加分は含めなかった。(△) ウ・生徒「人権意識」肯定91%となり、好ましい講演会などにより、想定以上に高まった。(◎)

府立枚方津田高等学校

2 豊かな人間力の育成	力強く社会を生きるための	(3)コミュニケーション能力の向上と他者を尊重する心の育成 アあいさつ運動の促進	(3) ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。	(3) ア・自己診断の「あいさつをしている」90%以上[89.2%] ・早朝のあいさつ運動の実施(年70日以上)[80日]	(3) ア・生徒「誰に対してもあいさつをする」91%となり、数値どおりの好ましい状況の日々であった。(○) ・早朝の生徒あいさつ運動105回。年間を通して、部活動単位で生徒が門の前等で続けた。(◎)
		イ国際交流活動の推進	イ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。 ・海外派遣事業のR6実施に向けての取り組み。	イ・教育旅行1校受入れ[0校] ・海外の高校とオンライン交流2回以上[1回]	イ・海外からの教育旅行受入れは0校だが、来年度と考えていた生徒海外語学派遣事業を前倒しで今年度実施に進めることができた。(○) ・韓国の高校とのオンライン交流を2回実施することができ、郵送によるプレゼント交換も1回できた。(○)
3 学校力・教員力の向上と働き方改革に向けた取り組み		(1)授業改善の促進 ア主体的、対話的で深い学びを実践する授業の実現	(1) ア・学校説明会での授業公開を実施し、主体的、対話的で深い学びを実践する授業を促進する。	(1) ア・主体的、対話的な授業を行っている実施率[94.1%] ・学校説明会時に授業を広く公開する。[0回]	(1) ア・教職員「主体的、対話的な授業」86%であった。授業見学週間等の機会を用いながら、促していきたい。(△) ・学校説明会時に中学生に在校生の授業を1回見学してもらった。(○)
		イICT機器の利活用スキルの向上	イ・ICT機器の利活用及び教科活用の促進	イ・ICT教員研修の年間2回の実施[2回] ・ICT活用に係る情報を、情報便りを通して職員会議の全回数の8割以上で共有する。[22/22回]	イ・ICT教員研修15回。今年度、ICTに関して新しい活用方法等の導入が多かったこともあり頻回実施。(◎) ・情報便りを20回/職会18回となり、全ての職会で発行した。(◎) イの両項目について、レベル向上を図れたため、来年度は今年度実績より減らしても対応できると考える。
		(2)津田高の魅力発信と地域連携 ア学校説明会等の充実	(2) ア・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」をアピールする。	(2) ア・中学校訪問50校[62校] ・中学校向け広報紙の発信(6回以上)[4回]	(2) ア・中学校訪問92校(1月末)。R6年度進路希望者数が減少のため、予定よりも訪問回数を増やした。(◎) ・中学校向け広報紙の発信9回(◎)
		イ地域イベントへの参加	イ・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。	イ・地域の行事等への参加(6回以上)[0回]	イ・吹奏楽部や生徒会などが活躍して地域への行事に6回参加した。来年度も地域と交流・認知してもらう活動を継続したい。(○)
		ウ多様な情報発信ツールの活用	ウ・学校HPの充実に取り組む。 ・SNS、動画配信サービスによる情報発信を充実する。	ウ・職員会議での情報の共有と生徒、保護者への的確な情報伝達と対応を行う。自己診断(保護者)の「情報提供」の肯定率80%以上[82.3%] ・学校HPの閲覧数の増加を図る。[76002回]	ウ・保護者「情報提供」肯定73%。来年度は保護者への文書配付のデジタル化に取り組みたい。(△) ・学校HP閲覧数79316回(◎)目標を上回る結果となった。
		(3)働き方改革への取り組み	(3) ア・全校一斉退庁日・部活動休養日の定時退庁を推進し、教職員の業務負担軽減を図る。 イ・職員会議のペーパーレス化に取り組む	(3) ア・全校一斉退庁日の退庁率について年間平均で90%を維持する。[90%] イ・実施状況に応じた評価。分掌、学年、PTなどに実施状況アンケート実施	(3) ア・一斉退庁日の退庁率91%。今後とも働き方改革について取り組んでいく。(○) イ・運営委員会・職員会議のペーパーレス化は10月に完了し、大きなトラブルなく移行することができた。(○)